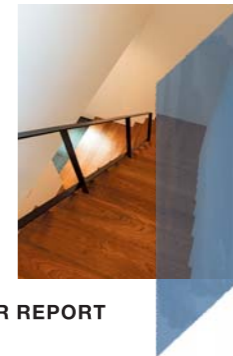


K邸  
新潟市中央区  
木造軸組工法  
工期150日  
フリープラン



上／キッチンを中心にダイニングとリビングをL字型に配したLDK。カウンターや壁でゆるやかに仕切られている 下左／リビングスペースの掃き出し窓は、天井の高さまで切り取って大きく。宙に浮いたTVボードはKさんの要望に沿って製作 下右／廊下の壁面には、飾りながら収納できる本棚。壁の色に合わせて特別に製作しているため、無理なく空間に同化している



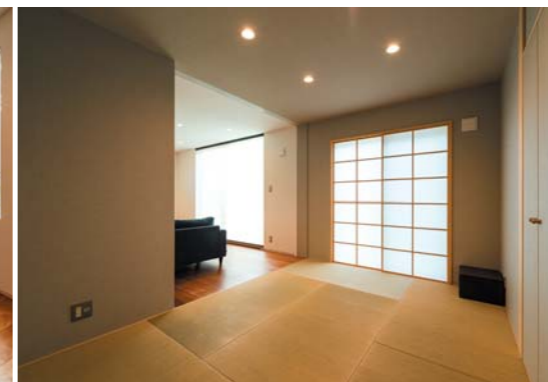
14  
BUILDER REPORT  
T's home

## 暮らしやすさと空気感の絶妙なバランス

「この雰囲気はほかにはない」。T's homeは、そう言われて選ばれることが多いという。素材が織りなすやさしい雰囲気と暮らしやすさ、そのバランスは絶妙だ。

T's home／津野建設株式会社

「何が違うんだろう」。T's homeのつくる家にひかれながら、その理由が言葉にできないと繰り返していたKさん。建てたのがこの家だ。具体的なリクエストはいくつかあった。寄棟造で、外壁は「伊礼色」と言われる特注色、障子は吉村障子。絵本を飾りながら収納する本棚や床から浮かせたTVボードの製作、そして「きれいにすっきり暮らしたい」という生活のイメージ。さまざまな要望を組み入れながらつくり上げたK邸は、T's homeのいつものスタイルとは異なる外観を持ちながらも、室内には、共通するやわらかな空気感が満ちている。「言葉にできない」と言いながらも、最終的にKさんがT's homeを選んだのは、この空気感が特別だと判断したからだろう。設計を担当する津野幹也さんは「小さなことの積み重ねだ」と話す。壁と床の境界線はすべて、手間も時間もかかる入巾木にしていること、たくさん収納を設けながらも、取っ手などは目立たせずに壁と同化させていること、そして1階と2階の床の色が違う場合は、階段のステップにグラデーションをつけて、両方の床に自然に馴染むようにしていること。Kさんに聞かれるままに、津野さんがこうした話をする。 「ミニマクですね」と笑ったというが、ディテールひとつひとつを徹底的に突き詰めた結果が、T'sスタイルともいえる雰囲気を生み出しているのは間違いない。実際、Kさんに限らず、この空気感が強く印象に残り、「やっぱり」と依頼されることが少なくないという。



左／大きな窓からたくさんの光が差し込む明るい玄関。窓際には造作の壁面収納 中／吉村障子を使った和室。引き戸を閉めれば独立する 右／軒の出90cmの寄棟造の家。1階と2階の窓の位置を揃え、整然とした印象に